

由良地区公民館便り

残したい伝えたい 由良の自然と文化

京都府立大学 三橋 俊雄

今日、私たちに求められている大切な課題の一つは、人と自然が深い関係性の中で共生し、地域の歴史・文化を次世代に向けて継承・創新していける地域づくりを、いかにすすめていくかではないでしょうか。

私たちは、そうした想いを抱いて、本年8月3日から7日まで、当地由良に滞在し、多くの方々にお世話・ご協力をいただきながら、夏季学外演習「宮津市由良地域の歴史的・自然的資源を活かしたエコミュージアム提案」を実施させていただきま

した。演習には、京都府立大学学生16名(内OB2名)教員1名、滋賀県立大学学生1名、教員1名の計16名が参加しました。

今回の演習では、由良のかけがえない「光・魅力」を、現代社会では消えかけている大切なもの、残していきたいもの、これからも発信していきたいものとしてとらえ、それらの「光・魅力」を由良の方々にも、また由良以外の地域・都市の方々にも理解してもらい、楽しんでもらうための「町ぐるみ博物館Ⅱエ

コミュニアム」であるとして、次の4つのテーマを掲げ、調査を行いました。

(1班)水田を再生して、環境教育のためのエコパークづくりを提案する

(2班)由良岳の生態的、景観的、あるいは山との関わりについて、その魅力を調査する

(3班)由良の伝統的・歴史的資源を生かし、町ぐるみ博物館を実現するための「お宝自慢」を調査する

(4班)汐汲浜の塩づくりの道具・方法や海の遊びを調査して、由良の海の生活の魅力を発見する

初日は、昼に到着後、まず地域をバスで巡りながら由良の概略をご紹介いただき、続くオリエンテーションでは自己紹介、由良の概要説明、意見交換等を、さらに夜の部では、各班に分かれての住民の皆さんからの情報提供と調査に係わる打合せ等、心温まるコミュニケーションをさ

せていただきました。

二日目、夏の厳しい暑さのもとでの由良岳登山では、「一杯水」に出会った時の感激や、由良岳山頂からのすばらしい眺望、また、登山途中で出会ったノイチゴ、カワラナデシコ、オオバギボシ、ホタルブクロ、ナルコユリ、ヤマジノホトトギス、ヤマアジサイ、オカトラノオなど、山中にひっそりと咲く野草の美しさ、けなげさ、自然の多様な豊かさについて深く感じる事ができました。

また、実質三日ほどの短い調査ではありましたが、由良の自然的、生活文化的資源の魅力やかけがえのなさに触れさせていただきました。その間、われわれの質問・インタビューにも快く対応していただき、地域の方々の由良の未来に対する熱き想いが伝わってきました。学生たちも、初めて尽くしの経験のなかで、「由良石」「田舟」「ゼンマイ飛行機」「山頂まで続く棚田跡」

「汐汲み浜の塩づくり体験」「カニ捕り」など、まさに、大学の授業では得られない「大切なもの」に出会い、何かを学び取ったように思います。そして、最終日の夜の「学生報告会」では、由良の「魅力や楽しみ方」などについて、学生なりに新鮮な視角から発見し発表してくれたのではないかと感じました。

このようにして、私たちは、宮津市由良の歴史や自然と共生してきた人びとの暮らしのなかから、潜在的な資源・価値を再発見し、地域内外の、例えば学生や都市住民と由良住民との交流を通して、その価値を学び、伝え、共有していくために、「地域の光をデザインする」「エココミュニティ」による地域づくり」という観点から、由良が元気で誇り高い地域になっていただくためのデザイン（調査・解析・創造的提案）をおこなっていくつもりです。

また、私たちは、地域が外部

の力によって発展・活性化するのではなく、地域に内在する自然的、生活文化的、人的資源を十分に活かしてこそ、そして、住民が主人公になってこそ、自らの力で、独自の、いきいきとした地域を創り出していけるのだということを「内発的地域づくり」という言葉でとらえ、その実践・お手伝いを、本学学生と共に皆さんの由良地域でさせていただきますたいと考えています。今後末永いお付き合いをさせていただきますようお願いします。



(1)各班に分かれての調査打合せ



(3)ゼンマイの葉で作った飛行機



(2)いざ、由良岳登山へ



(5)学生発表会



(4)塩ができた！！